

テーマ A：岡崎市中央図書館大量アクセス事件

・事件の概要

2010年5月25日、愛知県の岡崎市立中央図書館の利用者、中川さんが、「図書館のホームページに集中的にアクセスして閲覧しにくくした」として業務妨害容疑で愛知県警に逮捕、6月14日に起訴猶予処分として釈放された。

3月中旬ごろから、図書館のサーバが頻繁に停止するため、システム管理に採用していた三菱電機インフォメーションシステムズ社に対策を指示したが解決しなかった。図書館は警察に相談して被害届を提出したところ、原因が中川さんによる大量アクセスと認識された。

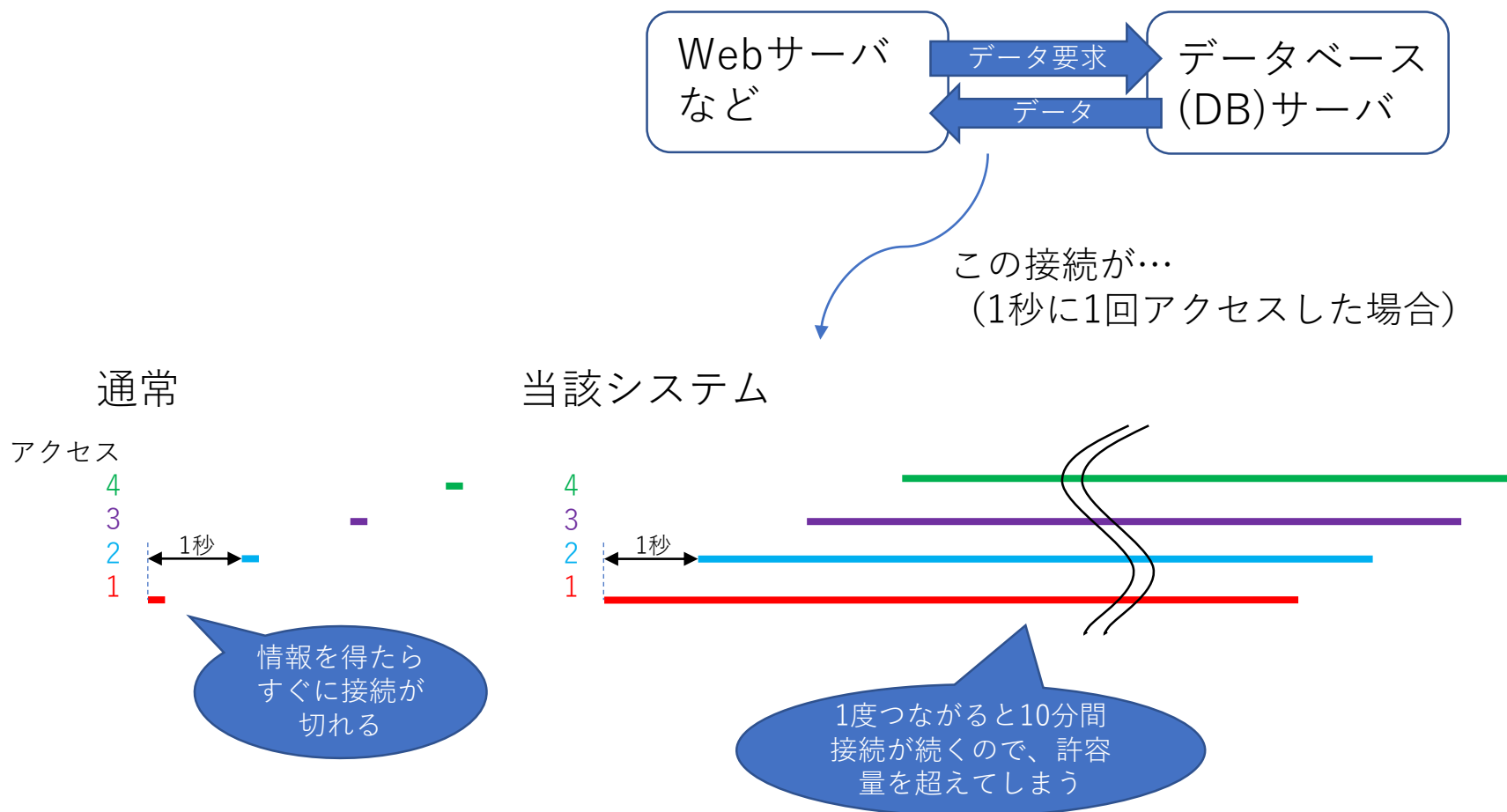
中川さんは釈放後の6月19日に自身のブログ「Librahack」に事件の経緯を公開した。そのため、この事件は「Librahack事件」とも呼ばれる。

結果として図書館のシステムの貧弱であったことが原因であり、中川さんの逮捕は不当なものとされている。

・事故発生の原因

中川さんは、図書館ウェブサイトの新着図書のページにおいて前日との差分から当日の入荷図書を抽出するプログラムを自作し、3月13日から毎日それを稼働させていた。このプログラムは2000ページを1秒間に1回か2回程度の速度で30分かけてアクセスするものだった。

Webサーバなどを通してデータベース(DB)サーバにデータを要求する際、通常のシステムではデータ取得後にその都度接続を切断するが、図書館のウェブページのシステムは、この接続を10分間つなぎ続けるものだった。DBサーバへの接続数は限りがあり、上限を超えると障害が発生する。



・事件に対する見解、残った課題

中川さんのプログラムは「シリアルアクセス」と呼ばれる方法をとっており、サーバへの負荷に配慮したものであり、業界の標準としてみて特別に不適切な方法ではなかった。逮捕の報道の直後から、専門家らからはこの対処に関しての疑問の声が出ていた。

10月には図書館側と中川さんの面談が実現し、図書館側がITに関する知識の欠如を謝罪した一幕もあった。しかし依然として中川さんが犯罪を犯したという事実は認められたまま解消せず、これが前例となって今後技術者が逮捕される可能性も存在する。

・出典 (2020年7月11日現在)

・高木浩光@自宅（テレワークを除く）の日記 2013年03月16日 岡崎図書館事件から3年 ～ もう一つの誤認逮捕事件
<http://takagi-hiromitsu.jp/diary/20130316.html>

・日本図書館協会図書館の自由委員会 岡崎市の図書館システムをめぐる事件について
<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/okazaki201103.html>

・Librahack <http://librahack.jp/>

・Think IT ミドルウェア(Web、AP、DB)について知ろう <https://thinkit.co.jp/article/11837>